

令和 6 年度

運営に関する計画

大阪市立天下茶屋中学校

令和 6 年 4 月

大阪市立天下茶屋中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「いじめのない学校づくり」を推進している。いじめの解消率については、毎年100%を維持する。

・校内外における暴力行為発生件数は年々減少傾向にある。今後も、校内外における暴力行為発生件数の減少に努める。

・「学校の規則を守るようにしている」生徒は増加傾向にあるが、学校内外での問題行動の発生件数の減少に努める。

・不登校生徒数のさらなる減少に努める。

・道德教育を推進し、人の心の痛みを理解し、道德的行動のとれる生徒の育成に努める。

・「全国学力・学習状況調査」において、各調査項目とも平均正答率は全国平均を下回っているが、差は少しずつ縮まってきている。また、平均無解答率において、国語、数学において全国よりも低くなっている。

・「中学校チャレンジテスト」において、教科の平均点数が大阪府平均を下回っているが、点数の差は縮まってきている。また、無回答率は府平均より若干高い。

・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点が男女とも全国平均を上回った。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

・令和7年度末の校内調査で、学校で認知したいじめについて解消した割合を100%にする。

・毎年度末の校内調査において、暴力行為を行う加害生徒数を、全校生徒の2%以下に保つ。

・毎年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上に保つ。

・令和7年度末の校内調査において、不登校生徒数を、全校生徒の10%以下にする。

・令和7年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・全国学力・学習状況調査における平均正答率を、対全国比で国語については0.9以上、数学Bについては0.85以上になるようにする。また、無回答率を令和5年度より減少させる。

・中学校チャレンジテストにおける全体平均点を、前年度より3点向上させる。

(R5 45.4点) また、無回答率を減少させる。

・全国体力・運動能力・運動習慣調査における各学年の合計得点を、R5年度より3.2点、向上させる。(R5 44.3点)

【学びを支える教育環境の充実】

・令和7年度末の構内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を90%以上にする。

・ゆとりの日については、週1回以上設定する。

学校閉庁日については、夏季休業期間、冬季休業期間中は3日以上設定する。

・図書館を放課後、朝の時間に週3日以上開放し学びを支える教育環境の充実につなげる。

- ・教職員の働き方改革に関する目標を設定する
 - ・4～11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2(※1)を満たす教員の割合を40%以上にする。
 - ・今年度の4月～11月までの8か月間の時間外勤務において、教員全体で100hを超える人数を0人とする。また、教員全体での時間外超過勤務の平均を50h以下にする。

※1（教育委員会が示す基準2）

次のア～エを満たす教員の割合

- ア 1年間の時間外勤務時間が720時間(月平均60h)を超えないようにすること。
- イ 1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6回までとすること。
- ウ 1か月の時間外勤務時間が100時間を超えないようにすること。
- エ 連続する2～6ヵ月について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えないこと。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を76%以上にする。
- ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・「健やかで豊かな心を育む教育」の充実に向けて、「人権」・「平和」・「国際理解」・「命の大切さ」について考える取組や、「人や自然と触れ合う」・「芸術に触れる」行事を推進する。
- ・令和6年度末の校内調査において、「学校生活が楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- ・令和6年度末の校内調査において、「しっかりあいさつをしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。
- ・令和6年度末の校内調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項で「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を29%以上にする。
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を50%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすること好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を57%以上にする。

学校園の年度目標

- ・学校図書館を授業で活用するとともに、毎日放課後開館し、生徒の自主的な利用をととして学力向上に結びつける。
- ・令和6年度末の校内調査における「学校の授業は分かりやすい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を65%以上にする。
- ・令和6年度末の校内調査における「宿題をきちんと提出した」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- ・部活動の活性化を図り、入部率を60%以上にする。
- ・生徒一人ひとりが自己の健康維持について認識を高めるため、保健指導や食育を推進する。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を27%以上にする。

学校園の年度目標

- ・図書館を放課後、朝の時間に週3日以上開放し、学びを支える教育環境の充実につなげる。
- ・年度末の校内調査の「時間を見つけて読書をしている」の項目について、肯定的な回答を40%以上にする。
- ・教職員の働き方改革に関する目標を設定する
 - ・4～11月の8か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2(※1)を満たす教員の割合を40%以上にする。
(R3年度42.86%、R4年度30.00%、R5年度37.04%)
 - ・今年度の4月～11月までの8か月間の時間外勤務において、教員全体で100hを超える月の人数を0人とする。(R4年度15人、R5年度1人) また、教員全体での時間外超過勤務の平均を50h以下にする。(R4年度56h31m、R5年度50h36m)

令和5年度															
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均	計
0h ≤ x ≤ 45h		5	6	7	9	23	8	8	9	10	10	11	12	8	118
45h < x ≤ 60h		3	3	8	8	3	8	3	9	7	7	7	7	10	73
60h < x ≤ 80h		10	10	10	7	0	5	11	6	9	9	7	6	8	90
80h < x ≤ 100h		8	7	1	2	0	4	4	2	0	0	1	1	0	30
x > 100h		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
80h以上		8	7	1	2	0	5	4	2	0	0	1	1	0	31
全数		26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312
割合(小数)		0.31	0.27	0.04	0.08	0.00	0.19	0.15	0.08	0.00	0.00	0.04	0.04	0.00	0.10
80h以上の割合(%)		30.8	26.9	3.8	7.7	0.0	19.2	15.4	7.7	0.0	0.0	3.8	3.8	0.0	9.9
学校全体								11月時点での基準2の達成率							
全月平均				48h44				R4年度				30.00% (30人中9人)			
4～11月平均				50h36				R5年度				37.04% (27人中10人)			

3 本年度の自己評価結果の総括

安全・安心な教育の推進

2学期の生徒アンケートでは、「学校のルールを守るようにしている」で91%で肯定的な回答を保つことができた。また、「学校生活は楽しいと感じている」という項目について肯定的な回答をした生徒の割合は80%で、昨年度より1ポイント下回った。

未来を切り拓く学力・体力の向上

2学期の生徒アンケートでは、「宿題をきちんと提出している」で77%で70%以上の肯定的な回答を保つことができた。また「学校の授業はわかりやすい」という項目について肯定的な回答をした生徒の割合は78%であり、昨年より下まわっている状況を今後改善していく。

学び支える教育環境の充実

- ・図書館開館は放課後、朝の時間などを合わせると、平日ほぼ毎日できており、目標を達成することができた。

・教職員の働き方改革に関して

4月～12月までの10か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2(※1)を満たす教員の割合を57.7%と目標の40%を大きく上回る結果となった。(R3年度42.86%、R4年度30.00%、R5年度37.04%)

- ・今年度の4月～1月までの10か月間の時間外勤務において、教員全体で100hを超えた教員は0人で目標を達成した。(R4年度15人、R5年度1人) また、教員全体での時間外超過勤務の平均は38.38hと目標の50hを大きく下回ることができた。(R4年度56h31m、R5年度50h36m)

教員の仕事量や負担はあるものの会議の精選、仕事の効率化、部活動支援員の活用などで効果が表れたと考える。

令和6年度														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均	計
0h ≤ x ≤ 45h	10	9	11	13	24	13	12	13	19	14	0	0	14	138
45h < x ≤ 60h	4	6	8	4	1	5	7	6	7	11	0	0	8	59
60h < x ≤ 80h	9	8	5	7	0	7	4	5	0	1	0	0	4	46
80h < x ≤ 100h	1	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	5
x > 100h	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80h以上	1	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	5
全数	24	24	24	24	25	25	25	25	26	26	0	0	26	248
割合(小数)	0.04	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.04	0.00	0.00	#DIV/0!	#DIV/0!	0.00	0.02
80h以上の割合(%)	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	4.0	0.0	0.0	#DIV/0!	#DIV/0!	0.0	2.0
1月時点での学校全体							12月時点での基準2の達成率							
	R5年度			49h32				R5年度			33.33%			(27人中9人)
	R6年度			38h38				R6年度			57.69%			(26人中15人)

(様式 2)

大阪市立天下茶屋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的 な「そう思う」と回答する生徒の割合を76%以上にする。 ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健やかで豊かな心を育む教育」の充実に向けて、「人権」・「平和」・「国際理解」・「命の大切さ」について考える取組や、「人や自然と触れ合う」、「芸術に触れる」行事を推進する。 ・令和 6 年度末の校内調査において、「学校生活が楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 70%以上にする。 ・令和 6 年度末の校内調査において、「しっかりあいさつをしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 85%以上にする。 ・令和 6 年度末の校内調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目で、「当てはまる (どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 85%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>人権を尊重する教育に関わる講話や体験学習を実施する。</p>	B
<p>指標 人権教育 (いじめを含む)・平和教育・性教育について講師を招き、それぞれ 1 回以上講話や体験学習を実施する。</p>	
<p>取組内容②施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>人や自然と触れ合ったり、伝統文化・芸術を鑑賞する機会を持つ。</p>	B
<p>指標 芸術鑑賞を 1 回実施する。また、フィールドワーク、園芸や緑化活動を通じて人や自然と触れ合う。</p>	
<p>取組内容③【施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>生徒会が中心となる行事をとおして、生徒同士が互いに支え合う集団を育成する。</p>	B
<p>指標 小学校児童との交流会 (年 1 回) やボランティア清掃 (学期に 1 回) などを</p>	

生徒会が企画し、生徒同士が協働することにより、互いに支え合う集団を育成するとともに、生徒一人ひとりの道徳性や社会性を育成する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>日々の教育活動を各担当教員が高い人権感覚を持って推進している。全校生徒に 8 月 6 日に平和人権登校日を実施し、全校集会の後、学年ごとに平和学習を行った。12 月に芸術鑑賞会を実施した。1 年生で助産師を招き性教育（命の教育）の実施。2 年生は職場体験を実施。3 年生は文化発表会で平和をテーマにした劇を行った。生徒会活動では、赤い羽根募金運動、児童見学交流会を実施した。様々な活動を通して「学校生活は楽しい」という肯定的な回答を 80%以上を保つことができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>次年度は、様々な教育活動について精選し、さらに充実した取組を実施していきたい。</p>	

(様式 2)

大阪市立天下茶屋中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 29%以上にする。 ・ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 ・ 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 50% 以上にする。 ・ 年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすること好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 57%以上にする。 全 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館を授業で活用するとともに、毎日放課後開館し、生徒の自主的な利用をと おして学力向上に結びつける。 ・ 令和 6 年度末の校内調査における「学校の授業は分かりやすい」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 65% 以上にする。 ・ 令和 6 年度末の校内調査における「宿題をきちんと提出した」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。 ・ 部活動の活性化を図り、入部率を 60% 以上にする。 ・ 生徒一人ひとりが自己の健康維持について認識を高めるため、保健指導や食育を推進する。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>家庭学習課題を計画的に出し、やりきらせることで学力を向上させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和 6 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【施策 5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>研究授業を含む校内研修を充実させ、教員の指導、学校力を高め、生徒の学力向上に結びつける。</p> <hr/> <p>指標 全教員が 1 回以上研究授業を実施する。校内研修会を年に 8 回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策 7、健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>保健指導、食育を一層推進し、生涯に渡り健康であるための意識を育てる。</p>	

<p>指標 「ほけんだより」「食育つうしん」を毎月発行し、学級活動などで活用する。 生徒が中心となり学校保健委員会を実施する。今年度は、小中合同の開催を目指す。</p>	
<p>取組内容④【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 新体力テストを全学年で実施し、体力の向上を図る。運動部活動への入部率を高め、 体力の向上を図る。</p> <p>指標 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、全種目とも全国平均を目指す。 運動部活動入部率を令和5年度よりも向上させる。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>研究授業実施の月を、原則1年生と2年生は2学期、3年生は1学期と学年ごとに設定した。生徒アンケートの「部活動に積極的に参加している」に対して、肯定的な回答が69%と昨年度の61%を上回ったが70%に達しなかった。また、朝の登校時間にも図書館を開館し、読書をする環境を整備した。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>今年度の取組を継続しつつ、校内での研究授業週間を活用して教科の枠を越えて交流し授業力を高めいく取組を行い、基礎学力の定着に努める。読書活動を推進していく。</p>	

(様式2)

大阪市立天下茶屋中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を27%以上にする。 学校の年度目標 ・学校閉庁日については、休業期間中に3日以上設定する。 ・図書館を放課後、朝の時間に週3日以上開放し、学びを支える教育環境の充実につなげる。 ・年度末の校内調査の「時間を見つけて読書をしている」の項目について、肯定的な回答を40%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・学習者用端末を活用した個人学習を月1回以上実施する。 ・本校の年間計画に沿って、ICT機器を活用した学習を月1回以上実施する。 ・学校施設設備・学習環境・学習ツール等を整備し、教員・生徒がICT機器を活用する力を育成する。	B
指標 ICT機器の活用研修を年1回以上実施する。	
取組内容② 【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・スクールサポートスタッフを有効に活用できるよう業務依頼を計画的に行い、職員の負担を減らす。 ・会議案件を伝達事項と協議事項に分けて、会議を効率よく進行し時間の短縮化を図る。	B
指標 職員会議の時間を年度当初より年度末の方が短縮できるようにする。	
取組内容③ 【8 生涯学習の支援】 ・学校図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。読書カードを活用して、文章を読む習慣の定着を図る。	B
指標	

校内調査において、「時間を見つけて読書をしている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を1%増加させる。	
取組内容④【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ・保護者や地域の方と連携した学習活動や、PTA、学校協議会、非行防止連絡協議会、人権教育ネットワーク等の活動を推進する。	B
指標 年度末の保護者アンケートの「学校は教育内容を家庭に発信する機会をよく設けている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和5年度より1ポイント増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今年度も読み聞かせ運動の一環として給食の時間を活用して全校一斉の「ランチタイム放送を月に2回実施した。 働き方改革を推進するために、「ゆとりの日」設定を増やししながら、会議時間を短縮するなどの取組を行っていく。 日々の教育活動は生徒にとって多くの場面で充実している。体力面においては体育科の授業の中で工夫改善し生徒の体力の向上に向けた授業実践がなされている。また、部活動においても活発に活動しており生徒の体力の向上に寄与している。各教科においても電子黒板等のICT機器を活用した授業実践が見られる。今後は活発な読書活動が望まれる。	
次年度への改善点	
図書館を積極的活用できる機会を増やすことで、読書活動を推進していく。 働き方改革を推進するために、「ゆとりの日」設定を増やししながら、会議時間を短縮するなどの取組を行っていく。	

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(1) 国語

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】導入教材を工夫したり、話し合いや作文のテーマを工夫したりして、生徒の興味・関心を引き出す。	B	B	
② 【個に応じた指導】個々の学力に合わせて添削やコメントを書き、やる気を引き出す。習熟度別にプリントを用意するなど、きめ細かな対応を行う。	B		
③ 【言語力の育成】日常的に読書を取り入れ、多様な表現や様々な考え方に出会わせる。自分の意見を述べたり、書いたりする機会を大事にする。言葉を推敲する経験を増やす。	B		
結果と分析			
① 俳句や短歌など、自分で創意工夫して作った作品を披露し、批評してもらう機会を設けることができた。また、三角ロジックを意識しながら意見文を書くことができた。			
② プリントができた生徒から順にわからない生徒のサポートに回す、もしくは発展プリントを解かせるなどして、学力の高い生徒が手持ち無沙汰にならないように工夫している。どの学年でも提出物に丁寧にコメントを書き、学習を励ましたり改善を促したりと個々に合わせたサポートができた。			
③ 自分の考えを書く機会は、作文や単元の中で行っている。しかし、自分の意見を発表する力は弱く、単語だけを発したり「なんとなく」など根拠のない意見で簡略化しようとする傾向が強い。言語能力はさらに高めていく必要がある。			
次年度への改善点			
言語化する機会を増やしていく			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(2) 社会

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【興味関心の向上】授業に新聞記事、時事問題等を活用して社会的事象の紹介を取り入れ、学習内容と関連付けを図る。	B	B
② 【個に応じた指導】 資料集や、I C T機器を使用した視聴覚教材の活用を取り入れる。	B	
③ 【言語力の育成】各分野における「調べ学習」を取り入れ、「課題意識をもつ」「調べる」「読み取る」「考える」「まとめる」「発表する」といった言語活動に取り組む。	B	
④ 【自主学習習慣の定着】家庭での反復学習ができるような教材の作成と、定期テストとのリンクを図り、基礎学力の向上を目指す。	B	
⑤ 【小テストの活用】 随時、小テストを行い学習内容の確認、定着をはかる。	B	
結果と分析		
①②③ 一人一台端末を使用し、調べ学習を通して時事問題の学習をすることができている。 また、自らの考えをまとめる時間を設け、主体的な学習を取り入れることができている。		
④ 自宅学習をしやすいワークシートを作成し、家庭での学習に取り組むことができている。		
⑤ 小テストや発問の工夫を図り、基礎・基本的な知識の定着をさせることができるように、取り組むことができている。また、タブレットドリルを活用し始めている。		
次年度への改善点		
I C T活用を継続しつつ、生徒が興味・関心を持ち、生徒自ら学ぼうとする授業づくりをして、生徒の基礎学力向上を目指したい。		

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(3) 数学

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】教材を工夫するとともに、定期的に小テストを実施するなどして、学習意欲の向上を図る。学習に関するアンケートで「分かる」を、60%以上を目指す。	A	B
② 【個に応じた指導】生徒が個々に独力で取り組めるよう教材・課題作りに努める。また、課題については細かく点検し、その結果を生徒にフィードバックする。	B	
③ 【言語力の育成】数学を活用して、「授業内発表」など、互いに自分の考えを伝え合う活動を意図的に設定する。	B	
④ 【学び直しの機会】既に指導した内容を意図的に取り上げ、復習をすることで理解を深めていく。	B	

結果と分析

- ICTを取り入れた授業をし、シミュレーションを見せることで問題をイメージさせ、少しでも興味関心をもってもらえるような授業展開を心掛けた。また、ICTに偏りすぎることなく、紙を切り貼りする作業など、実際に体験することで生徒の記憶に残るような展開も行っている。授業アンケートの結果83%の生徒が「授業の内容の習得」に対して肯定的な回答をしているため達成できていると考えている。
- スクールアドバイザーの先生に、指導・助言をいただき、授業展開のさらなる工夫に努めることができた。また、單元ごとに学習内容を振り返ることができるようリフレクションシートを活用し、生徒の学習状況を把握している。
- ペアワークや、話し合い活動を行っている。数学を不得意とする生徒も積極的に参加できるように、小学校で学習した内容を取り入れたりしている。
- 授業の最初に復習の小プリントを毎回行うことで、学びなおしを行うことができています。毎回前授業の確認から行うことで、授業に理解を持って取り組めるようにしている。3年生は習熟度授業を行い、学習内容を振り返る機会を設けることができた。

次年度への改善点

一人一台端末を使用した授業展開を取り込めるようにする。

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(4) 理科

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】教科内容を身近な事象と関連づけて導入する。また、実験を年間20回以上行い、興味・関心を高めて理解を深める。	A	B
② 【個に応じた指導】習熟に応じた練習問題の作成や、放課後などを利用して補習を行う。	B	
③ 【言語力の育成】実験や観察のレポート作成を通じて、結果や考察の表現方法を身に付けさせる。	B	

結果と分析

- ①実験は、生徒実験・演示実験併せて、現時点で1年生は20回、2年生は25回、3年生は20回行うことができている。
- ②習熟に応じた練習問題は実施できていないが、補助教材は適宜作成し、授業で活用できている。放課後などを利用した補習は、学年によって実施頻度にばらつきがあるが、実施できた。
- ③実験・観察のレポートは、各実験時に全員に作成させている。結果のまとめ方や、考察のし方も少しずつに身についている。

次年度への改善点

実験・観察に関しては、概ね計画通りに実施できている。引き続き取り組みたい。補助教材の利用方法や、放課後の補習については、工夫を検討していく必要がある。

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(5) 音楽

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況
① 【興味関心の向上】教師の模範演奏、映像教材などを使って、興味・関心を持って意欲的に取り組めるよう工夫する。	B	B
② 【個に応じた指導】一人ひとりの演奏を聴く時間を作り、それぞれの声域に合わせたきめ細かな指導に努める。	B	
③ 【言語力の育成】歌詞が表す情景や心情を感じ取ったり、リズム・旋律・形式・構成などの音楽を構成させている要素に注目しながら、言語を生かした表現ができるような指導に努める。	B	
結果と分析		
<p>① 授業アンケートの結果、91%の生徒が「先生は授業の教え方や内容を工夫している」の項目で肯定的な回答をしている。</p> <p>② 全学年、学期ごとに歌唱と、アルトリコーダーの実技テストを実施している。実施後は自己評価をし、教師からは5段階の評価とともに、アドバイスのコメントをしている。</p> <p>③ 歌詞の朗読を生徒にさせ、歌詞が表す情景や心情を感じ取るようにしている。また鑑賞の際は感想文や、紹介文を書かせて、言語を使って表現する取り組みをしている。また感じたことを絵画にすることも取り組んでいる。表現の多様性を感じる工夫をしている。</p>		
次年度への改善点		
<p>・音楽を愛好する集団づくりをするために、グループ活動を多く取り入れ、互いに教えあう時間を作る。教師からの評価だけではなく、生徒間で評価しあう場面を多く取り入れて、主体的な学びの実現を目指す。</p>		

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(6) 美術

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】参考作品や ICT 機器を効果的に使い、完成を具体的にイメージさせることで、制作活動に意欲を持たせる。	B	B
② 【個に応じた指導】個性を生かせる題材を選び、各自で主題を決定し、個々が満足いく作品に仕上がるように指導をする。また、個人差を考慮した指導に努める。	B	
③ 【言語力の育成】スケッチやワークシートを利用し、言葉と作品の関係を関連付ける題材を取り入れる。言語での表現が苦手な生徒も、相互鑑賞などを通して他者がどのような言葉で表現をしているのかを知り、参考にすることができる場を持たせる。	B	
④ 【表現力の育成】時間をかけ完成度の高い作品を目指すことで、表現の基礎的、基本的な能力を身に付けさせる。また、鑑賞の活動を通して、様々な表現方法があることに気づかせ、自らの作品制作に活かすことができるように指導を行う。	B	

結果と分析

- ① 授業では電子黒板を用い、豊富な画像や動画資料を提示して鑑賞・表現の深い学びにつなげている。
- ② 1 年生では、名前から連想させた漢字の絵文字、理想の部屋づくり、ロゴマークのスタンプづくり、2 年生では学校で役立つピクトグラム、個性を表す惑星の描写、3 年生では自画像やてん刻（自分へ贈る卒業記念品）などを制作し、各々が決定した主題に応じて個性を発揮することができた。
- ③ 相互鑑賞を行い、言葉での表現活動ができている。
- ④ 全学年十分に時間を確保して作品制作に取り組むことができている。また、相互鑑賞を通して他者の作品の良さや工夫に気づくことができている。

次年度への改善点

- ・生徒がタブレット端末を活用して、主体的に学びを深めることができる授業づくりをする。
- ・作品の発想に悩む生徒への手立てを用意する。特に、表現活動につながるような鑑賞活動を丁寧に行い、造形的な見方・考え方を深めさせたい。

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(7) 保健体育

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎体力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達

成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】視聴覚教材などを使用し指導を工夫することで、運動の楽しさを味わい、技能習得を図る。小さな成功体験を多く経験させる。	A	B
② 【個に応じた指導】新体力テストを全学年行う。基礎体力・運動能力を高めるために、記録カードを作り、目標設定をした上で記録向上に取り組む。基礎体力の向上のため、毎回の授業で補強運動を行う。	B	
③ 【言語力の育成】言語活動を取り入れ「グループ学習」を実施することで互いに指摘や協力をしながら、運動技能の向上を図る。	B	
④ 【集団生活】リーダー育成のため体育委員を中心に授業を進める。ランニングや行進、ラジオ体操など集団行動を大切にし、授業だけでなく、集団の一員としての役割や責任を認識させる。	B	

結果と分析

- ①視聴覚教材を使用するなど指導方法を工夫し授業を展開することができている。
- ②全学年新体力テストの実施ができた。毎時間、補強運動を実施している。
- ③生徒同士で話し合ったり教えあったりする機会を作りながら運動技能の向上を図っている。
- ④体育委員の指示・号令のもと、集団行動を意識しながら授業に参加している。

次年度への改善点

- ・小さな成功体験を多く経験させるため、段階を踏んだ指導を意識していく。
- ・指導者だけではなく、生徒自身また生徒同士で評価をし互いに指摘や協力をする機会を設けていきたい。
- ・前年度に引き続き、少しずつ用器具を充実させていきたい。

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(8) 技術家庭

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【興味関心の向上】日常生活に生かせる知識や技術の習得をめざし、授業内容を精選する。	B	B
② 【個に応じた指導】生徒一人ひとりの能力や長所を励まし、作品の合評などを取り入れ、生徒が互いに高めあえるよう援助する。	B	
③ 【言語力の育成】文章や口頭による発表を多く取り入れ、理解した事柄や感想をわかりやすく伝える能力を養う。	B	
④ 【情報モラルの定着】生徒の日常生活におけるコンピューターや携帯電話などの使い方を確認し、情報化社会の中で正しく判断し行動できるよう情報モラルの定着をはかる。	B	
結果と分析		
<p>①日常生活に生かせる知識技能の習得をテーマに授業内容を精選し、年間を通して取り組むことができた。次年度以降も引き続き取り組んでいく。</p> <p>②実習中の机間指導を意識し、個に応じた指導を行い、発表や共同制作を通じて生徒が互いに高めあえる取り組みができた。</p> <p>③文章や、口頭による発表が取り入れることができた。更に設けられるように改善していく。文章表記の作品評価は行えているので引き続き実施していく。</p> <p>④情報モラルについては、情報化社会の中で正しく判断し、正しく発信することができるように指導を続けていく。</p>		
次年度への改善点		
① ～④を継続、改善し取り組んでいく。		

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(9) 英語

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】 I C T機器の活用など、教材を工夫して作成する。日常生活の身近な場面と関連づけて、興味関心を引き出す。	B	B	
② 【個に応じた指導】 T Tまたは習熟度別授業を行い、よりきめ細やかな指導を行い、基礎基本の定着をはかる。基礎学力の定着をはかるため、基本的な内容の教材の作成、小テストなどの実施をする。	B		
③ 【言語力の育成】 C－N E Tとの連携で、コミュニケーション能力を高める4技能5領域（聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くこと）が身につくようにする。	B		
結果と分析			
<p>① 視覚的にも理解しやすいようにデジタル教材を積極的に使用した。また、教材に関しても興味がわくような題材や自分自身の考えを英作させたり、より身近で取り組みやすい題材で授業展開した。</p> <p>② 全学年で T T を行い、3 年生では、少人数授業も実施した。 各学年で生徒の実態に合うように工夫し、単元毎で単語テストや基本文の小テストなどを各学年の状況に応じて実施した。また、パフォーマンステストとして暗唱テストや発表なども実施し基礎学力の定着を図った。</p> <p>③ C-NET との T T に関しては、1 学期は 3 年生、2 学期は 2 年生、3 学期は 1 年で実施している。また、話すこと「やり取り」・話すこと「発表」の取り組みの機会も設けた。</p>			
次年度への改善点			
・基礎学力定着のために教材や指導法を研鑽していく。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(10) 道徳

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【生活習慣】教材や日々の生活点検、学年集会や朝の活動などを通して、望ましい生活習慣を身に付ける大切さを知り、調和のある生活を目指す。	B	B
② 【自主・自律】日々の学校生活の中で、規律を重んじ、集団の中で他者を意識する態度を養う。また、道徳教育と特別活動や学校行事などに関連させて、物事に積極的に参加し、責任を持つ行動する態度を育てる。	B	
③ 【生命尊重】読み物教材、視聴覚教材などを使って、自然・生命の尊さを理解し、自他の生命を尊重する態度を育てる。	B	
④ 【正義・公正・公平】教材を通していじめの愚かさを知り、無関心にならず、不正な行動やいじめを許さない態度を育てる。	B	

結果と分析

- ① 学年で頻度や形式は異なるが、全学年朝の集会を週に2回以上、場合に応じて臨時集会を行うことで、規範意識を向上させている。
- ② 全学年、行事を生徒主体で行うことができるように学級代表や実行委員が中心となり、規範を示しながら取り組んでいる。
- ③ 3年修学旅行・1, 2年一泊移住では、自然の雄大さに触れる機会を設けた。また、行事や読み物教材を通して生命を尊重することを意識させている。また、2年校外学習では、集団行動、班行動を通じて、責任と規律ある行動を身につける機会を設けた。
- ④ 学年ごとに生徒の実態に合わせて教材を選び、道徳の授業を進めている。

次年度への改善点

- ・教員間で、重点内容項目の周知を徹底する。

--

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(11) 特別活動

目標 集団を意識させ、個々の責任感や充実感を高める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【生徒会】学校生活の充実に向け、行事の進行・運営に積極的に取り組み、規律ある集団づくりを推進する。	B	B	
② 【生徒委員会】各委員会で毎月の目標の作成や活動を明確にし、主体的に行動するよう働きかけ、クラスや学年に貢献させる。また、生徒議会での委員会の連携をつくり、生徒に浸透させる。	B		
③ 【学級経営】終学活や清掃・係活動など校内における活動で、各々が役割をもって取り組み、また事後反省をさせることで、社会の一員としての自覚と責任をもたせる。常に集団を意識させた生活を送る。	B		
④ 【学校行事】体育大会や文化発表会をはじめとする学校行事では、集団としての意識を持たせ、生徒主体で様々な取り組みを進めさせる。	B		
結果と分析			
①生徒会活動や生徒議会等で、個人の責任感を高め学級・学年・学校の代表であるということを日頃から意識させることができた。			
②各委員会で委員となった生徒に責任感や使命感をもたせ、取り組ませることができた。			
③日々の活動のなかで、自分の役割に責任を持たせ、集団のなかの一員として行動することができた。			
④体育大会等の行事を通じて、集団行動の意味や大切さを知ることができた。			
次年度への改善点			
生徒会役員や委員会の生徒が、より責任を持ち活動に取り組めるよう働きかけていく。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(12) 総合的な学習

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【すすんで取り組む活動づくり】自ら学び考える力、主体的に取り組む力を養い、問題を解決する資質や能力を育てる活動をすすめる。	B	B	
② 【個性を引き出す指導】体験学習を通してさまざまな考え方を学び、生徒一人ひとりが主体的創造的に取り組む態度を育てる。	A		
③ 【表現する力の育成】自ら体験し考えたことを文章や発表にまとめ、伝える能力を育てる。	B		
結果と分析			
① 体育大会・文化発表会の目標を立てさせて実施できている。			
② 行事に向けての総合的な学習の時間を通して、生徒一人ひとりが自分自身のよさや可能性を実感することができている。また行事の成功を他者と協力して目指すことができ、「学びに向かう力」を培うことができている。			
③ 行事ごとに感想文を書き、学年で共通理解を図っている。文化発表会では各学年、総合の時間を活用して、表現する力の育成に取り組むことができた。			
次年度への改善点			
上記取り組み内容を改善、継続し取り組んでいく。 互いの良さを生かしながら、積極的に学校行事に参加しようとする態度を引き続き養っていく。 総合的読解力育成の取り組みを、各教科、分野、領域と連携して取り組んでいく。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(13) 特別支援教育

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【興味関心の向上】障がいを持った生徒が、興味を持って取り組める教材や学習活動を工夫し、自立活動や自立訓練を活発に行う。	B	B	
② 【個に応じた指導】社会的な自立を目標に、一人ひとりの持っている可能性を最大限に伸ばすための学習指導を進める。	B		
③ 【言語力の育成】「読み」「書き」「話す」の言語活動を中心に、基礎的な授業展開を中心に行い、自立活動や自立訓練を取り入れて自尊心の向上に努める。	B		
④ 【小中高連携】小学校や高等学校との連携を積極的に行い、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーとの連携も十分に行う。	A		
結果と分析			
<p>① ICT を活用した授業が普通にできるようになってきた。しかし自立活動には改善の余地がある。</p> <p>② キャリア教育実習や合同運動会に参加するなど、将来の社会自立を目標に活動に参加できた。</p> <p>③ 英語の授業などで ICT 機器や教員の端末等でリスニングの授業、プリントの書き取り学習、各学年の行事に合わせた学習などもできている。</p> <p>④ 地域の小学校の授業参観や特別支援コーディネーター間の交流はできている。また次年度の入級予定者や、次年度開設の自校通級の入級予定者の事前就学相談等も連携して行っている。</p>			
次年度への改善点			
<p>・ 職員の移動等で引継ぎが円滑にできていないところがある。資料などで基本的な引継ぎができるようにしていきたい。</p> <p>・ 特別支援学級内での自立活動が不十分である。今後は生徒の実態に合わせた自立活動の展開をしていく必要がある。</p>			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(14) 人権教育

目標 命を大切にする心や多様な人と共生する態度を養い、人権意識の育成に努める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【命を大切にする心を養う】平和学習や命の教育を通じて命の大切さを学び、互いを思いやる心を育成する。	B	B
② 【学びの仲間と共存する態度を養う】人々の多様性を知り、互いに助けあい、日々の活動に取り組む態度を育成する。	B	

結果と分析

- ①文化発表会や学年の取り組み等を通して命の大切さや、互いに思いやる心を育成することができている。
- ②各教科の授業や日々の取り組みを通し、他者に対し思いやりを持つよう指導することができている。また性の多様性についての講話も行うことができた。

次年度への改善点

- ・平和学習や命についての学習だけではなく、より多様な人権課題について知る機会を設ける。

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(15) 国際理解教育

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成

できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
【国際理解】 自国だけではなく、さまざまなルーツを持つ生徒がお互いの国の文化や歴史を知り、相互理解を深めることで、違いを認め、尊重し合える関係をつくる。多文化クラブの活動の取り組みなどを通して、国際理解意識を高める。		B	A
【国際貢献】 日本と他の国との関係を、歴史経過、歴史問題や現在の問題などを学習し、平和への意識を高める。		A	
結果と分析			
<p>① 多文化クラブ（カンパニー）の活動回数は月１回なので、十分な活動ではないものの、毎回数名の参加があり、楽しく活動している。文化発表会（展示の部）では、中国の玩具（こまやハンカチ）を展示したところ、たくさんの生徒が興味深くそれを手に取って楽しむ姿が見られた。</p> <p>② １年生……平和人権登校日に、戦争童話「ふたつの胡桃」を視聴し、空襲の恐ろしさを知り、平和について考える機会を持つことができた。文化発表会では、平和の祭典オリンピックをテーマに、調べ学習を行い、モザイクアートを完成させた。</p> <p>２年生……平和人権登校日に、「平和についての意識調査」のアンケートをもとに、平和学習実行委員による「平和について」の発表会を行い、平和について考える機会を持った。</p> <p>３年生……文化発表会（舞台の部）で、「戦争を知らない子どもたち」を劇で表現し、過去をふりかえり、平和について考える機会をもった。</p>			
次年度への改善点			
行事を中心に、日常の学校生活や教科指導の中でも国際理解教育を意識して指導していきたい。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(16) 図書館教育

目標 図書館に親しみ、読書を楽しむことを通して、豊かな人間形成や情操を養う。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【読書意欲の向上】	毎日開館することで、図書館利用の機会を増やす。本の魅力を伝える機会を増やし、読書意欲を喚起する。	A	B
② 【広報活動の活性化】	本の紹介や、図書の展示物の作成など図書委員の活躍の場を作る。 さまざまな場面で図書室の利用を呼びかけ、本を目にする機会を増やす。	B	
③ 【書籍の充実】	魅力的な本、調べ学習に役立つような本を優先的に購入するようにする。	B	
④ 【読書環境の整備】	生徒が気軽に利用しやすい環境を作る。	A	
結果と分析			
① 元気アップや図書館コーディネーターの方のサポートのおかげで、毎日の放課後や月・火・木・金曜の朝（８：１０～８：２５）の開館ができた。また、「読書の木」や図書委員による本紹介を通して、本を読もうとする意欲を喚起している。さらに、ランチタイム放送を行うなどして、本に親しむ機会を設けることができた。			
② 図書委員による本紹介のポスターを作成した。また、図書だよりも発行した。さらに、各教室に図書館の本を置く取り組みも行い、本を目にする機会を増やすことができた。			
③ 意識して、教科に関する本を購入している。生徒が好きそうな本の新着図書コーナーを作成した。			
④ 書架の配置を変更し、生徒が本を探しやすくなるように工夫している。全学年で教室にも書架を配置し、定期的に本の入れ替えもしながら、「朝読」に利用している。			
次年度への改善点			
本を丁寧に扱うことや返却期限を守るなど、基本的なことを徹底する。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(17) 視聴覚教育

目標 授業の進め方の工夫と研究を行い、基礎学力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
 C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【文化的取り組みの充実】 芸術鑑賞を企画し、滞りなく実行する。	A	B
② 【掲示教育の充実】 掲示板に生徒の目をむかせるような様々な工夫をする。	B	
③ 【視聴覚機器の整備】機器の場所や数などを把握し、いつでも誰でも使いやすいようにする。	B	

結果と分析

- ① 12月6日に実施でき生徒たちも興味津々で鑑賞することができていた。
- ② 学校のルールや図書室の利用状況などが、注目される掲示物になっている。また、各委員会により学校生活に関するポスターが作成されており、様々な所に掲示されている。
職員室前の掲示板のポスターを定期的に更新し、掲示することができている。
- ③ 視聴覚機器の紛失などが減少している。
また機器を少し拡充をすることができたので、上手く活用していきたい。

次年度への改善点

視聴覚機器の管理をさらに改善、継続し取り組んでいく。

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(18) 生活指導

目標 規律ある生活態度を身につけさせ、常に他者を意識させる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【基本的生活習慣の確立】 「時間を守る」「あいさつ・返事をする」「正しい言葉づかいをする」「正しい身だしなみ」といった学校における基本的生活習慣の確立に重点をおいて指導する。	B	B
② 【規範意識の育成】 日々の登校指導などの生徒指導だけでなく、教科指導や道徳教育、特別活動などすべての教育活動のなかで規範意識を育んでいく。	B	
③ 【生活指導上の課題への対応】 ・毅然とした姿勢で、繰り返し指導していく。学校としての生活指導の枠組みを理解させ、課題を明確にし、保護者の理解も得ながら丁寧に指導していく。 ・発達段階に応じた指導として、教師主導の他律的な指導から、生徒会や生徒委員会を使った自律性を養う指導へと移行していく。横の繋がりを大切にさせる。 ・「いじめ」の早期発見について、アンケートなどを行い、積極的に取り組んでいく。	B	
④ 【安全教育】 避難訓練を行い、地震・津波・火災などの被害や対策について理解させる。	B	
⑤ 【家庭・地域との連携】 地域巡視や学校行事等を通して連携を図る。また、ホームページなどを使い、学校の情報や取り組みを発信する。	B	

結果と分析

- ①学校における基本的生活習慣については、概ね定着している。場面によっては、正しい判断や行動ができないことがあるため、その都度改めさせ、小さなことが大切なことと理解させるよう努めていくことができた。
- ②学校生活の中で小さな変化を見逃さず、今後も集団の中の自分を意識させることができた。
- ③さまざまな事案に対して、粘り強く指導することができた。また、生徒会や生徒委員会の生徒を中心に多くの生徒が活躍できる場をつくることができた。
- ④火災の避難訓練及び、防災講座を区役所・消防署と連携し行った。また、地震・津波の避難訓練も実施することができた
- ⑤可能な範囲で地域との連携を図ることができた。

次年度への改善点

教職員の情報共有をより密にし、今後も指導を継続していく。
避難訓練の実施時期について検討を行う。

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(19) 健康管理

目標 自らの健康に配慮できる生徒の育成を行う。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【健康の生活習慣】 基本的な生活習慣を身につけさせる。保健だよりを年11回発行し、啓発を図る。1年生に「歯と口の健康づくり」について指導する。	A	B	
② 【食育】 身体は食事で作られることを理解させる。年11回食育通信を発行し、啓発に努める。	B		
③ 【現代的課題】 熱中症予防・感染症予防・薬物等について理解させる。保健だよりや校内放送などを通して具体的な方法を指導し、2年生向けに薬物乱用防止教育を実施する。	A		
④ 【環境整備】 保健委員会活動を中心にし、美化・環境整備の啓発活動を行っていく。	A		
⑤ 【家庭・地域との連携】 学校保健への関心を高める。学校保健委員会を年度末に実施し、家庭・地域と交流を進めていく。	B		
結果と分析			
① 保健だよりの発行をし、基本的な生活習慣を身につけさせるようにしている。1年生の「歯と口の健康づくり」については1月に実施した。			
② 食事の大切さを啓発したが、食育通信を11回は発行できなかった。。			
③ 文化発表会では保健委員会による感染症予防についての発表を行った。2年生の「薬物乱用防止教育」については11月末に実施した。			
④ 毎月保健委員会の呼びかけによる、清掃強化週間を実施し、表彰を行った。			
⑤ 西成区学校保健委員会に参加した。			
次年度への改善点			
・ 生徒が主体的に活動する取り組みを実施する。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(20) 研修

目標 各教科・領域にわたり幅広く研修を実践し、教師力・組織力の向上をはかる。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【研修計画】各部領域と連携し、授業研究をはじめ、学校現場の身近な問題に対する研修会を計画・実施していく。	A	B
② 【授業研究】第3教育ブロック研究会やOJT（On The Job Training / skill の伝承）の研修と連携した授業研究・研究協議を実施し、個々の授業力を高める。	B	
③ 【研究授業】1人1回研究授業を実施する。	A	
④ 【各種研修】各種の研究会・研修会の内容の啓発に努め、共通理解を深める。「天下茶屋プロジェクト」と連携し、若手育成のための研修を年3回実施する。	B	
結果と分析		
① 総合的読解力の研修を行った。（教務部） ② 救急救命講習を実施することができた。（健康教育部） ③ 授業力向上の取り組みとして年間1人1回の研究授業を順次実施している。 ④ 「天下茶屋プロジェクト」と連携した研修は、「学校安心ルールについて」、「大規模災害対策」、「保護者対応について」のテーマで行った。（管理職）		
次年度への改善点		
研究授業の参観の時間をできるだけとれるようにしていきたい。		

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(21) 天下茶屋プロジェクト

目標 学校の活性化に向け、教職員及び生徒会による組織的な取組みを展開する。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
① 【生徒の実態把握と教育実践】年2回の生徒アンケートを実施し、学校生活に対する生徒の意識、生徒に必要な教育内容を把握して、教育実践につなげる。その後の教育実践の結果として「学校生活が楽しい」と答える生徒を80%以上とする。(R5 81%)	B	B	
② 【教職員のスキルアップ】外部の研修等に参加するなど、外部の情報を積極的に取り入れて研修内容の充実を図る。また、先輩教員から若手教員へ「教師力向上」のための「知識や技能」「知恵」を伝えていく職場の気風を醸成させ、教科指導、生活指導における教職員のスキルアップを図る。	B		
③ 【外部機関との連携】大阪市教育局や大学などによる外部機関の支援のもと、校内研修の充実を図り、校内研修に対する教職員満足度を80%以上とする。また、PJの取組みを、教育関係者や地域などに積極的に発信する。	B		
④ 【生徒会活動の活性化】特別活動における生徒会活性化との連携を強化し、生徒会本部の強化を図る。生徒会主催の「校内自主清掃活動」などのボランティア活動を実施し、自己肯定感の向上を全校生徒に広げる取組を進める。	B		
結果と分析			
① 2学期に実施した生徒アンケート「学校生活は楽しい」の項目では、肯定的な回答が80%で目標を達成できた。			
② 「生活指導」や「総合的読解力育成カリキュラム」などのPJの校内研修で教職員の共通理解やスキルアップを図ることができている。			
③ 大阪市教育局のスクールアドバイザーと連携して若手教員を中心に授業力アップを図ることができた。			
④ 生徒会主催の「赤い羽根募金運動」や「児童見学交流会」を実施することができた。			
次年度への改善点			
「天下茶屋プロジェクト」を通して様々な面での教職員の共通理解を深めていくようなものにしていく。			
① 生徒アンケートの結果から成果検証を行い、今後の指導につなげていく。			
② 校内研修の内容をさらに充実させて、教育実践に活かしていく。			

教科・領域別評価シート

大阪市立天下茶屋中学校

(22) ICT

目標 ICT 機器を活用し、情報活用能力を養う。

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが、目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず、目標も達

成できなかった

取組内容（指標）		達成状況	
①【学習意欲の向上を図る】 ICT 機器を積極的に活用し、学習意欲の向上を図る。	B	B	
②【プレゼン能力の向上】 資料を作成し、発表する機会を設けることで、プレゼンの能力の向上を図る。	B		
③【情報活用能力】 必要な情報を選択し活用できる「情報活用能力」の育成を図る。	B		
結果と分析			
① ICT 機器の活用に積極的に取り組み、わかりやすい授業を心がけている。また、一人一台端末で調べ学習や Microsoft Forms を活用し、学習意欲の向上を図った。			
② PowerPoint やスプレッドシートを活用することで、プレゼン能力の向上に繋がった。			
③ 調べ学習では、様々な資料を吟味し活用することができた。			
次年度への改善点			
①～③を継続していく			

教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の時間配当

(1) 時間配当

	教 科	1 年	2 年	3 年
必修教科	国 語	4	4	3
	社 会	3	3	4
	数 学	4	3	4
	理 科	3	4	4
	音 楽	1. 5	1	1
	美 術	1. 5	1	1
	保健体育	3	3	3
	技術家庭	2	2	2
	外 国 語	4	4	4
道 徳		1	1	1
特別活動		1	1	1
総合的な学習の時間		1	2	1
合 計		2 9	2 9	2 9

(2) 日課表、週時間表 ※○は必修教科

時 程		月	火	水	木	金
8:25 予鈴						
8:30	短学活 (集会) 職朝		(全校)	(3年)	(2年)	(1年)
8:50						
	第1限	○	道徳	○	○	○
9:40	(休憩)					
9:50						
	第2限	○	○	○	○	○
10:40	(休憩)					
10:50						
	第3限	○	○	○	○	○
11:40	(休憩)					
11:50						
	第4限	○	○	○	○	○
12:40						
13:20 予鈴	昼食 休憩					
13:25						
	第5限	○	○	○	○	総合
14:15	(休憩)					
14:25						
	第6限	○	○	○ 2年総合 ○	特活	(補)
15:20	清掃					
15:35						
15:50	終学活					
16:00						
17:00	部活動 下校					

令和6年度 校務分掌

【教務部】部長（教務主任）－濱中 副部長－竹原 進路指導主事－坂田

教 務 (濱中)	行事の予定・調整（月間・年間行事予定表）、日課表	濱中		
	儀式に関する事項（入学式・卒業式等）			
	運営委員会・教育課程委員会などの運営			
	新入生受け入れに関する事項 （小中連絡会・小学校保護者への入学説明会） （新入生受け入れ書類〔就学通知書・指導要録抄本・就学予定者名簿〕の整理）			
	学校現況調査			
	生徒の進級・卒業に関する事項	学年主任		
	学級編成、教室配当			
	通知表・成績原簿・生徒氏名印など	濱中		
	学習カリキュラムの編成・定期テストの実施計画			
	教育指導計画に関する事項（資料作成、製本）			
庶 務 (濱中)	出席簿の整理点検と保管、授業時数調査、指導要録・抄本の整理・点検	1 年	2 年	3 年
		坪内	濱中 山本	富田
	転出入に関する事務	高橋	濱中	富田
	テスト問題の保管、成績一覧表等の管理・保管、	坪内	生駒	坂田
	成績処理に関する業務	高橋	山本	富田
	教務諸用品の準備と整理（出席簿・教務必携など）	全員		
	補欠授業の割当てに関する事項	全員		
	生徒名列表に関する事項	全員		
	行事予定表掲示（職員室）	山本		
	SKIP 諸設定全般（クラス編成 テスト素点成績関係）	濱中		
時 間 割 (富田)	授業時間割編成	全員		
	チャイムの操作	山本 坪内		
	特別観時間割の編成	濱中		
教 材 (山本)	教科書・指導書に関する事項	山本		
	副読本・参考書・問題集その他の教材の採択事務			
研修・研究 (坂田)	教育実習に関する事項	坂田		
	講習会・研修会・視察等の教職員研修に関する事項 （校外研修のとりまとめ・案内）	坂田		
	統計教育・教育統計に関する事項			
	校内研修の企画・立案			
進路指導 (坂田)	企画立案	坂田 竹原 富田		
	進学・就職の資料作成 前年度資料の整理・保管			
	進路指導用テストに関する事項			
	進路指導に関する事項の研究と推進			

	職場訪問（アフターケア）			
総合学習 （瀨中）	職場体験の企画・立案 総合学習の記録	瀨中（松下 田川）		
	各種鑑賞・行事の企画 芸術鑑賞について	坪内 生駒		
	揭示教育	坪内 生駒		
	視聴覚機器（放送・パソコン・プレーヤー・ビデオ・プロジェクター）の管理	高橋	生駒	竹原
学校図書館 （生駒）	企画・運営 図書の選択・整理	図書委員の先生 安野 生駒 坂田 瀨中 富田		
	図書委員会の指導 図書の貸し出し			
	図書館施設・備品の管理 図書館便りの計画・発行			
キャリア P （瀨中）	プリントを検討・計画	高橋	瀨中	竹原

【 健康教育部 】 部長－角床

副部長－長島

保健主事－井澤

美 化 （角床）	清掃用具の配当	角床 アン－坂本 長島
	清掃区域の分担割当て 清掃指導	角床 アン－坂本 長島
	清掃点検	角床 アン－坂本 長島
	机椅子等の調査管理	長島 松下 安野
	カーテン・ストーブ・加湿器の配給回収 及び備品回収	全員
保 健 （米戸）	保健室の整備 保全	米戸
	健康診断・結核診断の企画と実施	米戸
	予防接種 検尿など保健衛生に関する事項	米戸
	救急措置	米戸
	保健衛生に関する調査と資料の整理保管	米戸
	便所 水飲み場などの衛生管理	米戸
	日本スポーツ振興センターの事務	米戸
	学校保健法による医療に関する事務	米戸
	地域関係機関との連絡	米戸
	保健関係文書帳簿の整理保管	米戸
	保健委員会の指導	角床 アン－坂本 長島 米戸
給 食 （アン坂本）	給食担当	アン－坂本 安野 井澤

【 生活指導部 】 部長－田川 副部長－角田 生徒指導主事－岡崎

《生活指導係》

企 画 (岡崎)	生徒指導に関する研究および研究会の運営	岡崎 田川
	関係諸機関との連絡調整	岡崎
	家庭訪問の計画と推進	岡崎
	生徒連絡カードの整備・生徒写真	田川 角田 設楽
	小中連絡会	田川 岡崎
	学級日誌に関する事項	岡崎
	公文書の整理と保管	岡崎
生活指導 (岡崎・田川)	教育相談 生徒相談	岡崎 田川 全員
	企画 運営 調査 研究 相談活動	岡崎 田川
	登下校指導	全員
	生徒指導についての連絡および記録の保管	岡崎 田川 大本 白河
	生徒実態調査 長期欠席生徒調査	岡崎
	生徒手帳	田川
	生徒写真	田川
	遺失物	大西
部 活 動 (田川)	部活動の編成と運営	田川 大本 角田
	部活動の予算	田川 大本 角田
生 徒 会 (大本)	生徒委員会の指導	全員
	生徒集会	全員
	生徒会指導	大本 大西 田川 角田

《安全教育係》

安全教育 (田川)	災害救助隊の編成	岡崎 田川
	避難訓練	白河 大西 設楽 岡崎 田川
	安全指導（交通など）	設楽 角田 岡崎 田川

【 道徳教育推進委員会 】委員長（道徳教育推進教師）－大西

副委員長－アン－坂本

道徳教育	道徳教育の企画・立案	大西
	「道徳の時間」の企画・立案	大西 岡崎 アン－坂本
	学年教材管理	大西 設楽 岡崎

【 国際理解教育委員会 】委員長（外国人教育主担者）－山本

副委員長－坂田

国際理解 教育	国際理解教育の企画・立案	山本 坂田 金井
	外国人教育（在日外国人生徒の把握・連携等）	山本 坂田 金井
	カンパニー	山本 坂田 安野 金井
	小中連絡会	山本 坪内 金井

【 人権教育委員会 】委員長（同和教育主担者）－大本

副委員長－田川

人権教育	人権教育の企画・立案	角田 田川 大本
	人権教育実践交流会	大本 全員
	平和登校日	大本 全員
	性教育（命の教育）	大本 全員

【 ICT 教育推進委員会 】委員長－生駒

副委員長－白河

ICT 教育	視聴覚教育の計画・研修	生駒
	一人一台端末の管理	全員
	端末のアカウント・ID の発行	生駒
	視聴覚機器（ビデオカメラ・デジタルカメラ・プロジェクター・マイク・DVD ドライブ）の管理	生駒 高橋 竹原
	故障端末の報告	生駒 高橋 白河

【 事務室 】 谷口

一 般	庶 務	学割の発行	谷口
	文 書	文書の収受・発送・保管	谷口
会 計	公金会計	学校維持運営費に関する事務	谷口
		就学援助費	谷口
	公金外会計	徴収金会計収支責任者	谷口
		徴収金会計出納責任者	教頭
	物品会計	備品・消耗品に関する事務	谷口
	人 事	転退入教職員手続き事務	谷口
	給 与	給与	谷口
		旅費	谷口
	福 利	共済組合関係事務	谷口

【 管理作業員室 】 徳永

営 繕	徳永
清 掃	徳永
園 芸	徳永
給 湯	徳永

校務分掌・委員会組織

		1 年	2 年	3 年	
校務分掌	教 務 部	高橋 坪内	濱中 生駒 山本 金井	竹原 坂田 富田	
	生活指導部	岡崎 大本	田川 設楽	大西 白河 角田	
	健康教育部	角床 安野	アン - 坂本 松下	井澤 長島	米戸
四委員会	道徳教育 推進委員会	岡崎 安野	アン - 坂本 設楽	大西 富田	
	国際理解 教育委員会	坪内	山本 金井	坂田 長島	
	人権教育委員会	大本 角床	田川 松下	角田 井澤	
	ICT 教育 推進委員	高橋	生駒 濱中	白河 竹原	
主 任 会		高橋 岡崎 角床	設楽 濱中 田川	角田	校長 教頭
修学旅行委員会・予算委員会・施設整備委員会を兼ねる					谷口
運営委員会		高橋 岡崎 角床	設楽 濱中 田川	角田	校長 教頭
特別 委員会 1	文化発表会 実行委員会	角床 坪内 安野	設楽 山本 金井 田川 濱中	白河 竹原 長島	
	体育大会 実行委員会	岡崎 大本 高橋	アン - 坂本 生駒 松下	井澤 大西 坂田 富田	
特別 委員会 2	特別支援教育 委員会	安野 高橋 大本	濱中 田川 設楽	長島 大西 竹原 白河	校長 教頭
	いじめ防止対策 委員会	高橋 岡崎 角床	設楽 濱中 田川	角田	校長 教頭
	食物アレルギー等 対応検討委員会	角床	アン - 坂本		校長 教頭 米戸
	進路指導委員会	高橋 岡崎	設楽 濱中	坂田 角田 大西 竹原 白河 富田 井澤 長島	校長 教頭
	教育課程委員会	大本 角床	生駒 山本 金井 濱中 アン - 坂本	角田 大西 井澤 白河	校長 教頭

※「校務分掌」・「四委員会」・「特別委員会 1」については、いずれかに全員所属する